

令和 6 年度 多摩市文化芸術振興計画有識者会議 第 5 回 要点録

開催日時・場所	令和 6 年 10 月 23 日(水) 午後 7:00～午後 9:00 永山公民館（ベルブ永山）4 階視聴覚室	
参加委員	参加委員 9 名 伊藤委員、青木委員、岩佐委員、沖田委員、柏井委員、高橋委員、春田委員、横溝委員、米屋委員	
出席職員	くらしと文化部長、教育部長、文化・生涯学習推進課長、事務局 2 名	
主な内容	次第 1	今回の検討範囲と、前回の課題の確認
	次第 2	前回の有識者会議で示された主な意見
	次第 3	重点取組について
	次第 4	素案協議
	次第 5	今後のスケジュール
議題	主な意見（●事務局、◎会長、○副会長、◇委員）	
次第 1 今回の検討範囲と、 前回の課題の確認	◎会長：議事録の修正については問題ないか。 前回の意見について確認、全委員、了承 ●事務局：今回の検討範囲について説明を行った。 ◎会長：今回は素案協議を行う。今回の議論内容を反映したものがパブリックコメントに出される予定で、パブリックコメントの後に計画協議を経て完成となる。事務局からの説明も踏まえて、ご意見いただきたい。	
次第 2 前回の有識者会議で 示された主な意見 次第 3 重点取組について	●事務局：前回の有識者会議で示された主な意見と重点取組について説明を行った。 ◎会長：事務局からの前回の振り返りを基に、補足や質問等はあるか。事務局で、前回は 7 つあった施策を 4 つに再整理し、それぞれ 4 つの施策の下に入る取組と「計画の推進に向けて」の中に重点項目を設けている。中間支援機能については、施策の取組に入れるのではなく、全体にかかる内容のため、推進体制の一つとして別立ての構成とした。ご意見等はあるか。 ◇委員：とてもわかりやすくなったと思う。	
次第 4 素案（案）協議	●事務局：素案の第 1 章～第 4 章について説明を行った。 ◎会長：事務局からの説明について、ご意見等あるか。 ○副会長：第 3 章までは問題は無い。第 4 章はロジックがおかしい部分が散見される。例えば、P24 の最初のパラグラフでは、アンケート結果で、「学校等で音楽やダンス、アート、演劇等を鑑賞できる機会をつくる」取組が必要としている回答者が全回答者の 7 割を超え、「ホール・劇場や美術館・博物館など地域の文化施設における、子ども向けの鑑賞機会や学習機会を充実させ	

る」取組が必要としている回答者が5割を超えているのに対し、結論が、「学校での機会のさらなる充実」ではなく、「市内外の人や子育て世代への文化芸術活動やイベント・文化資源についての情報発信の充実」となっているのはおかしい。また、P24「○子供の文化芸術活動について」のアンケート結果で、「親が忙しく時間的余裕が無い」という回答が子どもを持つ回答者の5割を越え、親が忙しいから学校や学童クラブ等で文化芸術活動を行って欲しい、というのが親の意向であると考えられるが、その対応として学校以外での文化芸術へのふれあいをより創出する、ということが記載されているのはロジックとしておかしい。こういった課題は、第5章では重点項目として整理されている。第4章のロジックがおかしいので、整理し直していただきたい。また、P25の団体ヒアリングの箇所で、伝統文化の保存や利活用などについて「その他」という見出しになっているので、「次の世代への継承」等適切な見出しを付けていただきたい。

◇委員：アンケートの対象者を明確にした方が良くと思う。通常のアンケート結果では、回答率等記載があるので、関連の数値を明記する必要があると思う。

●事務局：資料編には記載しているが、第4章中の文章にも反映する。

◇委員：P16「市内の文化活動状況」について、多摩センター駅周辺には、市内唯一の映画館があるということを記載していただきたい。P18の最初のパラグラフ中で、多摩センターイルミネーションについても触れていただきたい。

◇委員：P18「市内各所における文化活動の状況」の中で、9つのコミュニティセンターがあると記載されているが、記載されていない地区名があるので、地区は網羅するべきではないか。

●事務局：駅前以外のエリアについては特段網羅するという意図はなかったが、地区は網羅するように配慮したい。

◎会長：施設を詳細に挙げるなら、団体の活動も詳細に挙げていただきたい。米屋副会長の発言にあったとおり、P23アンケートの結果と結論がロジックとしてつながっていない部分については事務局で精査して、整理していただきたい。

◇委員：P23の市民の鑑賞状況において、鑑賞しない理由として、時間が無いことと、関心が無いことが並列しているが、この2つは質が違ってもう少し分かりやすく記載していただきたい。関心が無い方にどう取り組んでいくかを書いていく必要がある。

◎会長：前は表形式で細かい分析をしていたためポイントが掴みにくかったが、今回はまとめ過ぎて繋がりが見えなくなっているので、事務局で整理し直していただきたい。市民が読む報告書としてポイントを分かりやすく記載した方がよい。

計画の全体像は、P26 の位置で良いか。

○副会長：P28「施策と取組」の冒頭にある方がよいのではないか。

◇委員：同意見である。

●事務局：全体像を施策と取組の冒頭にする。また、P27「施策と関連するSDGs とのゴール」については、資料編にするのも検討課題かと思う。

○副会長：P8 で SDGs に言及されているので、P27 にあえて図を入れる必要は無いかと思う。

◇委員：施策ごとに SDGs のアイコンを入れる方法も良いと思う。

●事務局：素案の第5章について説明を行った。

◇委員：P28「文化芸術に関する情報の集約と発信」の部分だが、最初の3行が同じことを繰り返している。また、最後の3行は、ここではなく、次の取組「文化芸術イベントの開催・開催支援」に移動したほうが良いのではないか。

○副会長：情報の集約と発信についての文章が“現状の言及”になっている。第5章全体で何か所か「〇〇〇しています」という現状の言及が出てくる。現状肯定で良いのか。続けていきます、拡充していきますという書き方にした方がよいのではないか。また、「文化芸術の鑑賞機会の充実」について、仕事・育児等の時間的制約、経済的制約により鑑賞機会が阻まれていることの解決策として、低価格かつ魅力的なコンテンツの情報周知が提示されているのはおかしい。鑑賞しにくい人に対しての施策とするのなら、子どもの預かりサービスは良いが、アウトリーチ活動をやっていくべきだと思う。別の施策で言及している箇所はあるが。取り組みの見出しと内容の説明が合致していない。

◎会長：施策Aと施策Bの内容がやや混在している気がする。各施策A B C Dで何を狙っているのかを明確にして、そのためにどう取り組むのかを整理すべきだと思う。

P30「地域アーティスト、クリエイター等の活動の場の充実」、P34「若い世代を中心としたアーティスト、クリエイター等への支援事業」も内容が混在している。

◇委員：多摩市民文化祭や TAMA CINEMA FORUM 等のすでに成熟したイベントよりも、これから芽吹いていくものを支援するという姿勢の方が重要ではないか。

◇委員：施策 A「誰もが」という表現が気になる。アンケートの中に文化芸術を直接鑑賞しなかった理由として、「関心が無い」という回答があった。文化芸術は、少し専門的なものから軽いものまであって、軽いものは充実している。アートイベントのような少し濃いめのプロジェクトに関心がある方もいると思うが、そういう人が「誰もが」の対象に入っていないと感じている。初心者向けに特化している。芸術文化に関心が無い人というだけでなく、関心はあるのだけれど多摩市の文化芸術活動に関心が無いという意味で回答した人もいるはずである。もう少し、アートに興味がある方々に対する支援が必要なのではないかと感じた。

◎会長：施策 A と B の違いが良く分からないので、「誰もが」というのが重要になる。何時でも、どこでも、というのは重要であるという一方、文化芸術に深い関心がある人が、多摩市に住んでいて良かったと思えるように、パンチがある事業もあると良い。施策 A と B をはっきりさせると良いのではないかと思う。

◇委員：施策 B を表現する側にフォーカスすると、その辺りがはっきりするのではないかと思う。交流は施策 D に集約されて、施策 A は楽しむ、機会を創出するというところにフォーカスするとその辺りのすみ分けがはっきりするのではないかと思う。

◎会長：施策 A は触れる、享受する、気軽に楽しめる、施策 D はいろんな人たちが交流して新しく創造するということを打ち出したほうが明確になるような気がする。

○副会長：項目ごとに一生懸命説明するとかえって難しくなってしまう。方向性と施策は、そもそも 1 対 1 対応が難しい。説明しすぎるのではなく抽象的な言葉でまとめた方が良いような気がする。具体的なイベント名や場所をあまり意識せずに包括的な言葉でまとめるほうが良いと思う。逆に P32 においては、重点取組「児童生徒に向けた芸術鑑賞および体験事業」が小学校、中学校を対象としているなら、内容としては弱いと感じる。また「乳幼児や児童生徒に向けた文化芸術の参加・発表機会の充実」については、幼稚園や保育園の記述が無い。また、昨今、保育園や学童保育とか、教育を補うような場所も求められていると思うので、そこが分かるように整理していただきたい。

◇委員：同意見である。保育園、幼稚園そしてこども園という言葉がどこに

も無いのは確かに問題だと思う。また、「乳幼児や児童生徒に向けた文化芸術の参加・発表機会の充実」という取組と「乳幼児に向けた文化芸術体験事業」という取組が分かれているのも違和感がある。

●事務局：子どもたちに向けた取組という議論から始まった話だが、細かく分類すると、未就学児、児童生徒、高校生になると思う。乳幼児に向けた具体的な働きかけ方、すなわち取組は、児童生徒とは異なるので、乳幼児と児童生徒に分けた。また、体験機会と発表機会は異なるものと考え、このような形になっている。

◇委員：児童生徒は小学校・中学校がメインだが、学校に行けていない子が沢山いる現状も考えると、そういう子が取り残されない形にしていきたい。

◎会長：子どもたちにはいろんな立場の子がいる。教育機関、準教育機関、コミュニティ、家庭、がクロスしている。すべて書くときりがない。計画の期間中にどこまで重点的に取り組むのか、多摩市らしさを取り組みにどこまで出すか。もう一つ、体験、参加、鑑賞の3つの視点から施策・取り組みを整理する必要がある。

◇委員：子どもへの取組について、子どもの感受性を高める一方で、多摩市の芸術環境が高いことに対する誇りを子どもに持ってもらう（シビックプライド）というのも良いのではないか。将来的に人が集まってくるような街になり、魅力向上につながる。

◇委員：P29「魅力的な文化観光資源の活用」の中にインバウンド需要が拡大しているサンリオピューロランドが入るのではないか。

◎会長：同意見である。多摩センターはハローキティにあえる街を標榜している。

○副会長：同意見である。

◇委員：多摩市にはキティちゃんと、ジブリという世界的に有名なキャラクターの文化があるはずだが、それが入っていないのは、不思議に思った。もう一つ、昔は多摩センターのペDESTリアンデッキに花が手入れされていて美しい街だった。子どもたちが誇りに思うのなら、植物が綺麗に手入れされているということも必要なのではないか。予算的な制約はあるだろうが、街をあげての花のあるまちづくりを記載してはどうか。

◎会長：施策 A と B の差をはっきりさせるためにも、施策 A は文化的な要素

が街に溶け込んでいるというのを入れたほうが良いのだと思う。その中で、魅力的な文化観光資源、多様な空間を利用して文化芸術に触れ合うようなものにする。施策 B には「文化芸術を創造・表現できる場の提供」「多様な空間を活用した文化芸術活動の充実」など意欲のある人が活躍できる環境の整備など。施策 A と B の取り組みをシャッフルして、そこに〇〇委員がおっしゃった景観についての取り組みを入れても良いのではないかな。

◇委員：施策 D を交流とするのなら、例えば、施策 A の国際交流は施策 D に入っただほうが良いと思うし、クリエイターの支援は施策 C か B の中に入っただほうが良い。交流のところで言うと、芸術団体の交流促進以外に、例えばパルテノン多摩の鑑賞者が観客としてのみに留まらず、芸術が好きな人たちが集まって交流できる場所があり、それがコミュニティとなっていく、まちづくり的な部分があっても良いのではないかな。

○副会長：P31 施策 B の中に、障がい者および高齢者の文化芸術活動の推進が記載されている。共生社会というのは、上から施すようなものではなく、お互いが違いを認めてともにいられるのが理想である。施策 A もしくは B においても、鑑賞・参加しやすい環境づくりについて入れられると良い。

◇委員：P31「高齢者の文化芸術活動の推進」の取り組みで、現状行っている長寿を共に祝う会に文化芸術が加わっていくのか。高齢者の方が主体的に文化芸術活動をすると言っているのか、文化芸術活動に触れる機会を増やそうとしているのか、分かりにくい。高齢所管自らやるのか、文化所管と一緒にやるのか。

●事務局：総合福祉センターや KITAKAI さんぽ館で高齢者の人たちが積極的に文化芸術活動をやっているというイメージである。長寿を祝う会を書くことで誤解が生じるとするならイベント名を書かないこととしたい。

◇委員：米屋副会長がおっしゃったように、具体的なイベント名を入れると、逆に分かりづらくなる気がする。もう少し、「こういう事」を推進しますと言っただほうが良いのではないかな。施策と取組の区別が必要ではないかな。今現在行っている、市の取組を言っているだけなのか、分かりにくい。市が取組むのか、団体が取組むのか、団体を支援するのか。現在のフェーズについてもう少しシンプルな言い回しがあるのではないかな。

◎会長：現在行っている取組の例示なのか、今後力を入れていく事業なのか分かりにくい。

○副会長：高齢者という記述に違和感がある。高齢者と子どもが一緒になって行う取組もあるはずだ。グルーピングすることでかえって分断が深まる。

◎会長：障がい者、高齢者は施策 A のような気もする。

◇委員：施策 B は表現者を支援することなら、あらゆる人を支援するという意味で障がい者、高齢者も必要。高齢者と子どもたちが一緒に行く取組というのは必要だと思うので、施策 D の部分で集約されると分かりやすいと思う。

◎会長：施策については何を指そうとしているのかをはっきりさせる形で内容を精査し、未来に向けた取組に対して力を入れるところを明確化する。それを重点項目にする。取組の数は減らしても良いと思う。注力する部分についてのイメージが明確化できるようにすればよい。

●事務局：ご意見を踏まえ、整理する。

◇委員：P32 施策 C「児童生徒に向けた芸術鑑賞および体験事業」の中で、市内の文化施設や多様な団体と協力しながら拡充していくとあるが、誰がやるのか明確でない。多様なジャンルの鑑賞や体験という意味合いで多様な団体と書いたのならば、その視点は生かしてほしい。次の段落でいきなり伝統文化の継承につながっているが、推進するのは市なのか。

◎会長：主語を特に書いてなければ市であると思う。市民、企業など主語は、はっきりさせるべきだと思うが、全部書くと細かすぎる気もする。

●事務局：基本的には行政計画なので主語は市になる。支援する、環境を整備するというように、間接的に市が取り組むものもある。違和感があるようなら、指摘していただきたい。

◇委員：地域の協力を得ながら進めていくというのは、市が取り組むものであるということを明記したほうが良いと思う。

◇委員：市内小中学校においては、地域によって伝統文化の継承に関して人材が多いところと少ないところがある。それについては、市全体として支援するという文言を入れるのが良いのではないか。伝統文化の継承の取組は「実施」ではなく「支援」のほうが良いのではないか。

●教育部長：「支援する」というと、教育委員会以外という意味になるが、「実施する」というと教育委員会の事業として実施するという内容になる。そのあたり、実施する部分と支援する部分について、どのように加えていくかはもう少し考えていきたい。

○副会長：P32 は現状を書いているだけのような気がする。学習指導要領に書いてあることを記述している。もっと拡充していくという意欲があまり感

じられないので、5年後にどうなるかを考えると、市の教育委員会がやるのか、民間がやるのかは分からないが、より拡充するという書き方にしていきたい。

●事務局：素案の第6章について、説明を行った。

◎会長：重点取組の目標値は中間値までになっている。中間見直しの時に変わっていくという意味である。

◇委員：この目標値は例であって、これから検討していくものになるということか。情報発信の箇所では1日にXで発信していく回数になっている。アウトカムではなくアウトプットが指標になっている。

●事務局：あくまでも例示として挙げている。一旦目標値は決めているが、指標は今後の文化芸術推進委員会で議論していきたい。ただ、この段階である程度具体的な目標値を出していきたい。この段階でこのような目標値があると良いというご意見があれば参考にしたい。

◇委員：発信回数はいくらでもできるが、リーチした人数が成果として重要ではないか。届いた数を見ていけると良い。「地域アーティスト、クリエイター等が優先して活動できる場の数」も拠点の数ではなく、支援したクリエイターの数が良い。「児童生徒に向けた文化芸術の鑑賞または体験事業で、市が実施または支援している事業数」も難しい。サポートできた子どもの数のほうがより良いと思う。

○副会長：同意見である。事業のアウトプットを掲げるのではなく、インパクトを測る指標を掲げるほうが良い。アンケートを実施して、文化芸術に関心が無い人の割合がどのくらい減るとか、アンケートの結果を上手く生かすのが良いのではないか。

◎会長：基本的にインプットが中心になっている。インパクトとか事業の目標値を指標とするほうが良い。中間支援機能は定性的な目標が書かれている。目標値を設定するのは難しい。このようなやり方も良い。現段階で目標値を決めるのではなく、文化芸術推進委員会の中で議論して、インパクト、アウトカムに近いものを決めていくというやり方のほうが良いかもしれない。現段階は、こういうのを目指す、検討事項だというほうが良いのではないか。

◇委員：私もそう思う。どういうことをやっていくかが決まらないといけない。KPI やスケジュールを決めるのには時間が足りないと思う。

◎会長：目標値は推進委員会の中で議論していくこととして、重点取り組み、

	施策 ABCD の整理はこれで良いか。 ◇委員：施策 A については、情報を重視するのか体験の機会を重視するかどちらかだと思う。施策 B は違和感がない。施策 C は鑑賞なのか体験が重要なのか、どちらなのか。 ◇委員：P38 重点取り組み③で、「イベントの数を増やすことや、芸術性などを高めることに視点を置くのではなく」という書き方ではなく、「視点を置きつつ」という表現にしたほうが良いのではないかと。文化芸術の質を高め、触れる機会、イベントの数を増やすのも充実につながる。 ◎会長：今回、目標値を出すことは止めて、目標値を出すために必要な文章を書き、来年度計画推進委員会の中で決めて行けばよい。 情報発信の目標値では、SNS だけでなく、他の施策をどうするかを書いても良い。目標値の説明のなかでもう少し整理できていると良い。他の部分は一応書いてあるような気がする。 施策は再整理した方が良いが、こうした方が良いという提案があれば、メール等で今月中に事務局に出していただければと思う。 ●事務局：今後の予定について、11 月に庁内協議を経て、12 月にパブコメにかける。次回有識者会議を 1 月に実施したい。本日の内容について、指摘があれば今月中にいただきたい。 ◎会長：なお、パブコメとして委員が意見を出すことも可能である。それでは本日はこれで閉会する。
--	--